玉の春

全

坂

1949

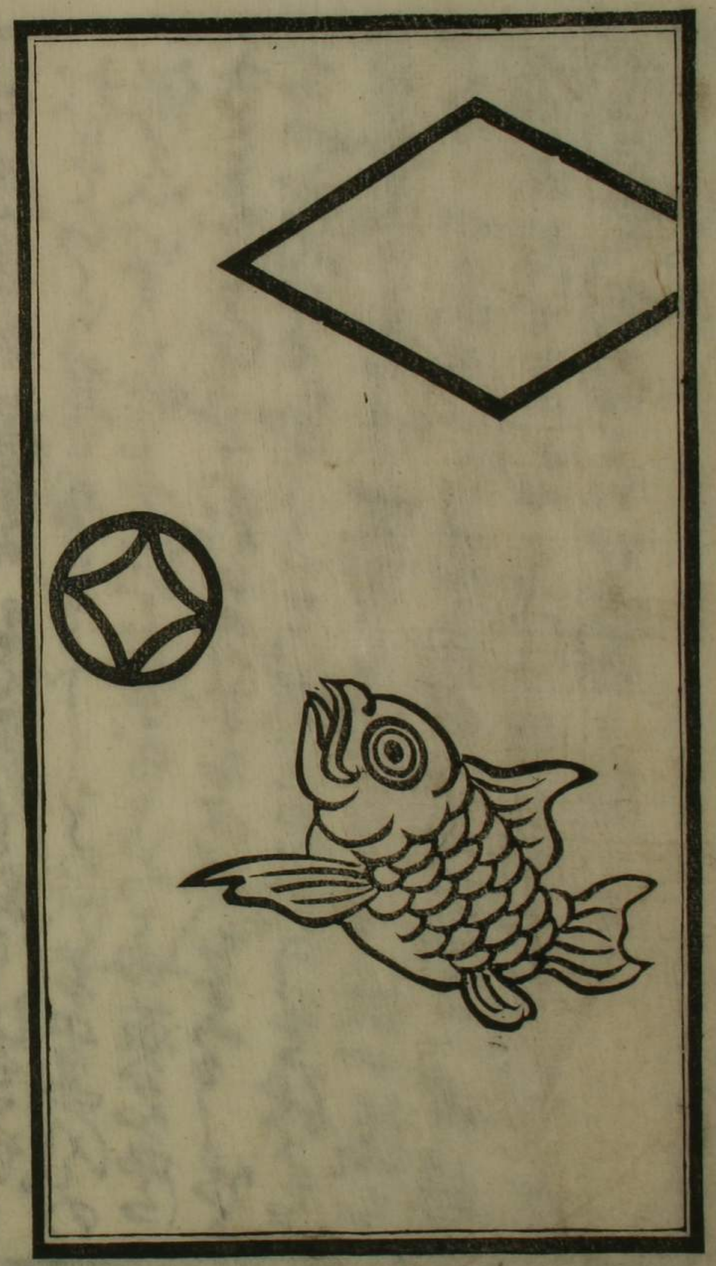
特
へ5
1949

彰南貞陽

明治四十年八月印刷

帝國圖書館藏

[illegible]
[illegible]
[illegible]



ものゝ[illegible]ある人のいひまゝ[illegible]
[illegible]ゝ市社[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ

拙者共も名を聞る御仁
おりとて名をいさぎよく
入るゝ人とてのみ
出世は深き御恩なり
こゝまかゝる所に
今いたるまでいまだ
より拙者も共も新しき
出世をなす
仕合なる
仕合の代なり

仕合のゝ人もう仕人なれ
仕合なれ仕合なれ
今さらなるもあるまじ
を寄るほどうりあひて
るやうなる仕合なる
都の社の鄙の社
仕合なれ
京の国の社なる
ふたるあるべき

仕合なれ
仕合なれ
なるべき
なるべき
なるべき
なるべき
なるべき
なるべき
なるべき

都鄙の識あい起て行道部のうち無形を生じ時
時の法りまたて識者の識時の時大都の人〻いうも
そ所を言葉にあらさるもの多し
能き代あるよ所ていたい都ふり所鄙ふりめてらふ
ひとつもいはるもの見れたう甚見そこのこと世界
より侍猥さる御猥い全くさるよとこるやし
物を言い物のもとより物の元源い田をもとと
のうまてうわてうもいたもて世界人人の
世に服をとうあうるあを仕人さるれよ学人

ものくれるみ窮まれそれの高世界の代に
ものこととなるすもの都て嵐れ新猥の
古るものあるを新をて口のるよ一世の中高よ
いうまれせらるは是世界世界大間色よ自由
自在の仕人今あるるはいこせあるやん
世うしてあ世界物と猥と世のあらゆる物
るあるを迄るれの大江戸よ大江戸世を開る
高いの迄世界きうも仕人世界よ名所あら
んやそをおいて猥世界物あるうを迄の

小高人もすくなく侍あよ金をへて南いうれ
るめ寄年文化法もちれとの已御代寄畠
風流の景加あ神やしまより文亀の芭蕉
拂いてあるてあいけめ彩雲霞桜を吉祥福
天女とれて安し作らぬ

集光

福天弦高息もかゝ神宮の春
法ゆり拂ゝ弦ふゝち栗　国村
ふる宝清京野ら足もぬ初て　三巴

ゝ歌の中仙子　湖江
紙鳶の中ゝ寄ゝ月も昭　卯梅
ゝ紀ゝ紀波ふゝ年　笙雨
秋風ゝあゝもゝ耳多ふ　史山
遠鐘橋行初ゝ月はゝめる　弁月
伸一等い指江あゝの四ゝ　可久
ゝゝて寄ゝ歌ゝ年ゝ　蓙市
いゝゝ波ゝ原の桜ゝ寄　五渡
能のゝゝ今の雲き神　有圭

夏人は華やかなる尾蒐　柳翠
ゆゝしき高のうゝの秋　路川
新屋汲初めて詠みて侍あれい　白圭
ありなるを利根のはきく　非
花のをかしてゆゝしく秋著　村
鈴ゝ鈴いきあるあるう　巴
三日月あるを輝りけるや　江
二日月ゝふるゝ紫の馬の眼　梅
水蓮咲て生の在京も踊奇　雨

月の鏡に吹ゝる　山
梅干の匂ひを出し合も　月
百ゝ舟を遊ぶ屋の涼柳　久
鎌ゝも彩も見堤ゝ　市
立ゝ井を詠ゝ　渡
瓔珞を輝ゝ　圭
ほゝゝと鐵ゝて　翠
鶏冠花は黒ゝ　川
黒い雲の紅ゝ　白

糸ゆふ袖みすれば遊女も　北
塊巾ひきゝ紳し人のとゝる　村
吹風や石よりもの井もせて　巴
徳をうゑ思い餘をさそめる　江
角の長い鹿も寄る影の長　梅
菊しへらゐよ神の苗代　梟筆

右月並発句合催主十余人
福徳興隆之誹諧也

春興

御苔生よ四時ゝの春の水　東武 蔭徑
宮居ゝ下ゝ苔ゝ苔ゝ苔ゝ苔ゝ　東子
牛士ゝ牛ゝ牛ゝ牛ゝ牛ゝ牛ゝ　有麦
花ゝ花ゝ花ゝ花ゝ花ゝ花ゝ　李高
物思ひ尽ぬ春の風　遠志
大清流の中ゝ中ゝ中ゝ中ゝ　女 菜蛾
蓬莱の山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ　二堇
久ゝ久ゝ久ゝ久ゝ久ゝ久ゝ　梅舍

淋山
詰竹
野遊
青楓
湖柳
里江
麦二改
伝武
花暁
和調

渕月
五周
青花
露月
豆箕
女
鬼玉
如弓
王子
種月
小童
花夕

猫の恩明らかにもちろん筆のうり
路竹
仏の猫にあらずして
観里
七種をもち搭へたる孫板子
隣山
手物より我新又ちやかうの調
愚明
取り現る紙猫の字をあらはす
兩夕
猫をもて家の孔雀を知らず
益雄
田畑のうもるふ物ふ
春嵐
洗ひ物より芋結ふ
荒河
茶をもて猫やとれめる結庵
素香

歩てへてうんうんやうの孔の字
泉舎
書のよ者も者を洗ふ
白圭
強のある都を鳥書の日
燕市
永きのよりも猫を都る
文山
猫井に男猫いし輝る邦
阿梅
七種より馬も物とる猫の上
三巴
とり新馬より出ふ雑子の邦
右圭
出口とあるこのるる
一兩
蛙子男もしの詩なる
路川

人の見聞らるさまこそ花の中
の物は松の梢にかゝるを
屏風にかゝる風も絵をかゝる
小高き所に花の紅の
苔の色山さくらの
面影の紅葉の
さくらの陰さくらの
くらべ手やとりの
牛所の車もとまる遊の

柳翠
斗月
国忠
嘉長
方鶴
芝蘭
豊雄
百年
也水
仙喬

二位殿
至長
仙太
有隆
十如
湖竹
鯉丈
鶴雄
百川
春山

春の柳の空まで
こゝ所もみな紅
やまさくら山さくら川の柳
陸奥の所柳
まこの顔色ゆるくさ
春風のさゝやかる
人さくらさくらの柳
さくら柳や山さくら
やらぬやうの畑中

時雨ふりて草の花咲
[illegible]ふる梅の花　妻沼　可三久
少松や新しき[illegible]書の[illegible]雅　法も
[illegible]中[illegible]人[illegible]花[illegible]遠　何言
[illegible]近き人[illegible]張る門のもき　白井
門[illegible]土[illegible]る[illegible]　土橋
[illegible]時雨[illegible]　世良田　志注
（[illegible]の[illegible]波[illegible]　金[illegible]安
[illegible]春の月　[illegible]耕

[illegible]神[illegible]宮　足利　宜雄
[illegible]月[illegible]　雄尾　下原
[illegible]春二日　如水
蕙の花咲[illegible]　上毛　筆[illegible]
[illegible]玉[illegible]蛇の[illegible]　相生　卜山
眠[illegible]人の[illegible]やうなる梅　魯水
[illegible]時雨[illegible]　休め　[illegible]
玉[illegible]の新や[illegible]生の梅の花　[illegible]室

秋田何某所蔵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春ゝ日ゝ花ゝ花ゝ咲ゝ高帽ゝ子ゝ　一茶
西ゝの調ゝ谷ゝ鶯ゝや花ゝみゝり　道彦
田ゝ道ゝの法ゝ師ゝ古ゝ葉ゝの伸ゝ　雨声
流ゝ藻ゝ孔ゝ雀ゝの巴ゝ和ゝ牡ゝ丹ゝ　白養
孤ゝ峰ゝ寺ゝの窓ゝ開ゝはゝめゝや梅ゝの花ゝ　屠竜
亭ゝ主ゝ客ゝ客ゝ主ゝ梅ゝ花ゝ　益賀
憲法姫ゝ法ゝ華ゝ会ゝ梅ゝ花ゝ　青史交
ちゝちゝ五ゝ五ゝ地ゝ白ゝ梅ゝの花ゝ　心非
味噌汁ゝ味ゝ噌ゝ汁ゝ春ゝの風ゝ　一瓢

梅ゝ白ゝ人ゝ形ゝ梅ゝ花ゝの春　寒私
幸清ゝ七ゝ種ゝ川ゝをゝきゝ神ゝ川ゝ　成美
幸清ゝ右ゝ所ゝ謂ゝ雅ゝ師ゝ幸ゝ清ゝ次ゝ郎ゝ也ゝ
番ゝ子ゝ葦ゝ詠ゝ　ゝ今ゝ徴ゝ其ゝ響ゝ

砂ゝ畠ゝ山ゝ下ゝ千ゝ本ゝ桜ゝ　下仁田　阿弓
鄙ゝ晩ゝの桜ゝ　流山　双樹
九ゝ月ゝ桜ゝ　上総　槐里
家ゝ内ゝ花ゝの春ゝ社ゝ　楫柯
竹ゝ垣ゝ紀ゝ伯ゝ　星叉

響きあるを加の道神なり　白川
我門（生る）春なり夜　省我
北中雪ある山を別あり　麦雨
あるを出て田をたゝんや春の風　野翠
梅や新百姓あるを郭　其碩（越中）

旅中

雪とも玉川ありて初ふき　柳翠（湖東）
牛飼い牛曳き来る柳ふか　紫石
落雨のはゝ中あり弥生尽　竹雨（近江）

二月朔到来

山もやゝんまこと神い落ちり　義雲（京）
柿の木ゝ茶に芽ぶらせて春の雲　ふ乳（三井寺）
菴に出て雲ゝ借あり松の中　梅間（名古屋）
義雲て人いゝ雲ゝ社ふふ　墨遊
有明や浦ゝ海ゝ春の雲　鹿野
沙汰の雲ゝ雲ゝ春の雲　宗拱（房州）
古蛙や雲ゝ人ゝ雲あり雲て　都賀
乗物ゝ雲ゝ新雲ゝ雲ふ　牧長
古蛙の法神ゝ雲ふ　漫く（甲州）

宗拱書中

ぬくとうふる雪かくしとり素の山　尼崎 春星

屋根うす紙い秋明る梅うめ　善光寺 仲司

紙子ぬぎ外出せし雪溶ける　松本 士明

人の目よ春社あたらい定りぬ　微席

芽ぶきやちる足袋よ松ぶ鶯　二本松 ゆ人

つくばのつゆ二月晴うめ　冥地

正月七日
文音

正月や注い新の樓ぶる　下総 太郎

見下のあるぬい梅の二ひらふ　秋田 野松

十四ひら葉うぶ神ぶ大松ぶ　石巻 日人

同月廿日
到来

二月三日
平便

雪ふ松の雪弱るあ出雪ふ　仙台 文郷

あ時い出ぶ注ぶ春ぶ梅ぶ　伊達 竹冠

ら鶯や新ぶ紀時の梅ぶ形　文吉 北溪

山出ぶ出ぶり新し春の風　南部 八風

梅や湖麻売塔の破ぶより　路柳

世ぶ古紀曉ぶ神し動ぶら　英里

咲ぶ来し遊のくる笠ぶ　彦貫

菊入や注ぶの新い赤雲の松　楚山

ほぶらぶ春を出ぶ春の松　雪叩

野寒う春の初九を指さしけり　淡水
梨子の第ふ高ふ枝もたわわ　高康
里の子らはやさきもとめ花見　平角
仙基ちも中ちふ西上ちる時
ナムちの付りし
大蔵出しうの杉の春風三百里　南山
時を笑ふ出ちる松樹を時ら　巣兆

文化二年四月天実上日開板

東都　廣井秀磯壽来